

種苗法改正で何が変わるのか

11月15日、ドキュメンタリー映画「タネは誰のもの」が上映されました。「シャインマスカット」や「あまおう」などの高価で優良な新品種の海外流出や自家増殖を防止し、新品種を開発・育成した事業者の権利を保障するために、種苗法を改正するという政府の方針に一石を投じる内容の映画です。



タネは誰のもの



一口に農家と言っても、新品種を開発する農家だけでなく、種や苗を毎年種苗会社から買って育てる農家、自分の畑で取れた作物の中から良いものを選び、そこから種や苗を取って増やし(=自家増殖)、気候や自分の土地に合ったものへ改良しながら作り続ける農家など、その在り方はさまざまです。映画では、主に自家増殖で栽培を続ける農家の「自家増殖禁止」への危機感が表現されています。

これに対して、農林水産省は「自家増殖を禁止するのは登録された新品種だけであり、在来種の自家増殖はこれまで通り可能だ」としていますが、在来種であっても今後は登録品種として自家増殖は全面禁止になるという不安を農家は持っているのです。その背景には、穀類を始め、多くの農産物の新たな登録が急ピッチで増加している事実があります。国の農業政策は貿易振興を名目に、日本の農業の保護よりも世界基準に合わせることを優先しているように見えます。

種苗法は2020年11月19日に改正されましたが、その際、国内の農業者を守るため、厳密に法の執行を行うようにという付帯決議が付けられました。今後はこの付帯決議にも目を配り、日本の農業を守り育てていけるよう監視していくことが重要だと考えます。



活動報告

- 10/29 議会報告@調布駅前
- 10/30 認定NPOまちぽっと主催
自治体政策・条例化研究会 報告提案フォーラム
(子ども政策・都市農業推進政策各検討チーム)
- 11/2 調布駅南口広場計画パノラマ-実測調査に参加
- 11/6 市議会広域交通問題等対策特別委員会傍聴
議会報告@国領駅前
- 11/7 西調布駅周辺整備街づくり協議会 傍聴参加
- 11/8 いのち環境ネットワーク5Gから健康とプライバシーを守る会主催
GIGAスクール・電磁波「自治体の現状と私たちにできること」
- 11/10-11 多摩住民自治研究所主催 財政分析基礎講座
- 11/15 調布地域協議会主催 映画『タネは誰のもの』上映会
- 11/17 市議会中心市街地基盤整備等特別委員会傍聴
- 11/18-19 市議会第四回定例会議案説明
- 11/20 市議会広域交通問題等対策特別委員会傍聴
- 11/26 市議会幹事長会議・議会運営委員会
- 11/30 市議会第四回定例会本会議(開会)
- 12/2 一般質問

- 12/7 社会的企業研究会主催学習会
「困窮者のSOSをどう受け止め支援するか」
- 12/9 市議会定例会 建設委員会審査
- 12/12 市川房枝記念会女性と政治センター主催 2020連続講座
「気候危機とヨーロッパ 連合のヨーロッパ・グリーン・ディール」
- 12/17 市議会第四回定例会 閉会日
- 12/20 東京外環道工事中止を求めめる街頭署名活動
- 12/23 市議会調布飛行場問題等対策特別委員会
- 1/6 市議会幹事長会議
- 1/9 市川房枝記念会女性と政治センター主催 2020連続講座
「年金制度の現状と課題」
- 1/10 外環ネット主催学習会「被害補償とは何か」
- 1/11 東京外環道工事中止を求めめる街頭署名活動
府中・生活者ネットワーク主催
個人情報保護法学習会
- 1/12 市議会タレット講習会
- 1/21 日野市プラスチック工場見学会

詳しい活動報告は
ブログでも



イルミネーションRE100にて

野川の水生生物調査報告

10月に野川の水生生物調査に参加しました。今年子ども5人、大人6人が参加。網に水生生物を追い込むレクチャーを受け、毎年定点観察をしている細田橋付近で川に入り捕獲しました。この日採取したのは、カワニナ、タイワンシジミ、カワリヌマエビ属、アメリカザリガニ、タモロコ、モツゴ、スミウキゴリ、ニンギョウトビケラ、ヒラタドROMシ、クロヒラタカゲロウ、シマイシビル、イトミミズ、フトミミズ、シマトビケラで、個体数ではカワリヌマエビ属が一番多くいました。講師から、「アメリカザリガニは食用ウシガエルの餌として持ち込まれ繁殖した外来種」などの説明があり、みんなで興味深く耳を傾けました。

野川は国分寺市内の水源を始点として、流域から湧水を集めて多摩川に合流する全長約20kmの河川です。川の中では水生生物たちが温暖化や水量などの環境の変化を受けながらもその命をつないでいます。現在調布流域では治水や水枯れに対応するための河床整備工事が進められていますが、生物多様性の観点から水生昆虫や魚、植物への負荷を最小限にとどめるよう働きかけていきます。



左上から時計回りに:野川調査のお供、野川流域連絡会で作成した「野川の生きものガイドブック」・川網で草むらや川底の石をガサガサして網に入った生物を調べます・スミウキゴリの腹びれにある吸盤を下から観察・調査で見つかったさまざまな水生生物